

「1967年児童文学」とオーレ・ロン・キアケゴー
—50年後も愛される作品の意義と魅力—

デンマーク語専攻 小森那々海

目次

1. はじめに
2. 「1967年児童文学」
 - 2.1. 時代背景
 - 2.2. 「1967年児童文学」の特徴と作品
3. オーレ・ロン・キアケゴーについて
 - 3.1. 作家・作品紹介
 - 3.2. 作品の特徴
 - 3.2.1. 登場人物
 - 3.2.2. 舞台設定
 - 3.2.3. 文体・絵・形式
4. オーレ・ロン・キアケゴー作品の今日的意義
 - 4.1. 作品の現代における評価
 - 4.2. 現代児童文学とのつながり
5. まとめ

使用テキスト

邦文参考文献

欧文参考文献

インターネット上の資料

資料 キアケゴーの作品

要約

デンマーク国民的児童文学作家，Ole Lund Kirkegaard(オーレ・ロン・キアケゴー，1940~1979)は，デンマーク児童文学史上の転換点となった「1967年児童文学」にデビューし，優れた児童文学を世に送り出した作家のひとりである．しかし日本ではあまりその魅力は知られておらず，デンマーク国内の研究においても「1967年児童文学」個々の作品に着目した研究はほとんどない．そこで，本稿では，デンマーク児童文学史上におけるキアケゴーの作品の独自性と現代における意義を考察するとともに，世界中で愛されるキアケゴーの作品の魅力を日本に伝えることを試みる．

第二章では，「1967年児童文学」が登場した当時の時代背景と，これらの作品に共通する特徴，個々の作品の紹介を行った．1960~70年代，デンマーク社会は豊かになった一方，これまで当然に受け入れられてきた権威や伝統的価値観に疑問が呈され始めた．福祉国家の実現が急がれ，教育観が見直された時代でもあり，弱者とされる人々や子どもたちに目が向けられるようになった時代でもある．こういった時代に生まれ，共通した特徴を持つ優れた児童文学「1967年児童文学」は，デンマーク児童文学史における大きな転換点となった．作品の主人公の子どもたちは皆，大人や権威から自立し尊厳を持った一個人である．文体もそれまで大人の言葉で書かれていたが，子どもたちが日常で使うような生き生きとした言葉で書かれたり，言葉遊び的な要素が加えられたりした．当時の教育的な側面にとらわれず芸術的な価値が重視され，真に子どものために書かれた児童文学は，現代の児童文学にも大きな影響を与えている．

第三章ではキアケゴー自身に焦点を当て，作家・作品紹介と作品分析を行った．キアケゴーは教員として働く傍ら，子どもたちとの対話から作品作りへの着想を得，短編「竜」で，1966年に新聞社ポリティケンのコンクールで受賞したことをきっかけに，1967年に『ピアギル三人組』でデビューし，数々の作品を生み出して人気を博した．アルコール依存に陥り38歳で早世した後も，新たな作品が出版され，日本語を含む数多くの言語に翻訳されており，映画やミュージカルなど様々な媒体で地域や世代を問わず愛されている．

キアケゴの作品には、自立していて権威に反抗を試みる一方で、完璧な優等生ではない少年、大人の権力者、子どもの権力者、一般人の大人、子どもの憧れとなる大人のヒーローやヒロイン、動物が登場する。キアケゴの作品の主題となっているのは大人と子どもの対立ではなく、権力とそれに立ち向かう者との対立という社会構造そのものである。権威に頼らずに生きていける真の強さを持つことの重要性を伝え、階級や地位に縛られている大人を批判する。

作品は子どもたちの目線から捉えた世界が描かれており、情景描写が少なく、読書に苦手意識を持つ子どもたちにとっても読みやすい。作品の「ハイパーリアリズム」的な特徴は、彼の作品が国境や世代を問わず普遍的に受け入れられることを容易にする。また、この点から作品が教育的な目的で描かれたものではないことも読み取れる。田舎の設定を舞台にした作品は、社会の分断が権威に依存する人間の弱さに起因することを強調する。リアリズムとファンタジーの共存は、規範に疑問を投げかけ、周縁化された子どもから居場所を奪う社会の柔軟性の無さを批判する。キアケゴの作品は、その文体や形式からも、字を読むことに対して、子どもの頃作家自身が感じたような困難を抱える子どもたちへの配慮が見られる。絵の枠取りはフィクションと現実世界の境界を明示し、作品に芸術的な価値を与えている。

第四章ではキアケゴの作品の今日的意義と、作家が現代児童文学に与えた影響を検討した。作品は現代において、大人へのメッセージ性の観点でも評価されている。移民問題やジェンダーの問題など、現代の文脈で新たな解釈が付与された作品も存在する。

キアケゴの作品は1967年以降の児童文学史においてみられた潮流に合っていたことが、彼の作品が長く愛されてきた所以であろう。現代児童文学作家の Kim Fupz Aakeson(キム・フォップス・オーカソン, 1958～)の作品を見ても、現代社会の文脈において創作されていながら、内容と言語の両面でキアケゴからの影響を受けていることが見て取れる。第五章では本稿のまとめとして結論を述べた。児童文学の中で転換点となった時代にあっても、キアケゴの作品には独自性がある。普遍的な人間の内面性を扱っている点が国境や世代を超えて作品が愛される所以であり、時代に合わせて新

たな価値が付与される．よって今後も読み継がれていくべき
作品であると結論付けた．